

社団法人 私立大学情報教育協会  
平成 20 年度第 2 回経営工学教育 FD/IT 活用研究委員会

- I. 日時 : 平成 20 年 9 月 29 日(月)午後 2 時から午後 4 時まで  
II. 場所 : 私立大学情報教育教会 事務局会議室  
III. 出席者: 渡辺委員長, 玉木委員, 細野委員, 中島委員, 佐々木委員, 小池委員  
井端事務局長, 森下主幹, 恩田事務員

配布資料

資料 0-A)渡邊一衛:技術者の素養と中央教育審議会答申の「学士力」との関係

2 行目:参考資料 1-2→資料 0-B

4 行目:参考資料 2→参考資料 1

1)2.⑩:infomating→informating

資料 0-B)渡邊一衛:エンジニアリングとエンジニアリングデザイン序論目次

資料 0-C)玉木欽也:資料①「経営工学系人材のキャリアプランニング」からの抜粋(学部卒の部分)

学士力 1.:求められる→求められる

学士力 3.①:QCEDS = Quality, Cost, Delivery, Environment, Safety(Service), 4M = Man, Machine, Material, Method

学士力 3.⑧欠番

資料①)玉木欽也:経営工学系人材のキャリアプランニング(特集 1), 経営システム, Vol.16, No.6, pp.426-429

資料②)小池稔:第 1 回本委員会議事メモ

資料③)経営工学の学士力(原案)

資料 1)CCC 土木工学系運営委員会:土木工学系の学士力(案)

資料 2)経営学教育 FD/IT 活用研究委員会:経営学の学士力

資料 3)機械工学教育 FD/IT 活用研究委員会:機械工学の学士力

資料 4)建築学教育 FD/IT 活用研究委員会:建築学の学士力

参考資料 1)各専攻分野を通じて培う「学士力」～学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針～

参考資料 2)学生 基礎学力ない, 新聞, 平成 20 年 7 月 23 日

参考資料 3)本間政男:OECD が大学の「学習成果の評価」を構想, 教育改革 ing

参考資料 4)e ラーニング専門家育成プログラム社会人向け基礎講座

検討事項(以下, 敬称略)

1. 学士力について

(A)事務局報告

本年度は, 分野別の質保証を目指し, その後評価の測定についても検討したい. 10 月下旬までに, 分野ごとの到達目標作成する。

「共通の学士力」は文科省から出ているので, 分野固有の能力をその上に載せる形で, 検討する。

分野固有の能力については、FD/IT の 17 委員会+CCC 運営委員会できあがったものをネットで公開・配信し、意見をもらう予定である。

私情協としては、サイバーFD研究員を通じて現場の意見を集約、さらに委員を通じて、社会の人からの意見・ニーズを合わせて、取りまとめた。体系的・統合的に見定めたいと考えている。

#### (B) 検討内容

- ・ 10 月に出す分は、到達目標の固有の部分のみとする。
- ・ 1年かけて、第2段階へ進む。
- ・ 実現手段を提案し、「IT をこう使える」を示す。
- ・ 4年後には報告書として出したい。
- ・ 論理的・体系的に IT を活用する。
- ・ IT を使ってはいけない場面もあることも示すことによって、初心者教員も失敗を避けられる。
- ・ 本年度でとりまとめ、以後、改訂を継続する。

## 2. 産学連携について

### (A) 事務局報告

経団連と9/10に打ち合わせを実施、私情協ジャーナル6月号、9月号に、社会への支援の内容を掲載した。産学連携について具体的な行動を起こしたい。

目標が出てきた時点で、産学連携の会議を持ちたい。

経団連は、特に文化系と接触を期待している、

### (B) 検討内容

- ・ 産学連携については、意見は沢山あるが、発散しがちであるので、ルールを作って取り組む必要がある。先生方・現場との意識あわせが大切である。
- ・ 教員のフィールドワークとしての、教員のインターンシップが欲しい、企業側もインターンシップに敏感である。
- ・ FD の会議、教員こそが主体的に動いていくべきである。
- ・ 人材育成については、是非とも現場教員の意見を入れたい。
- ・ インターンシップの段取り、構想提案が重要である。大学教員個人では限界がある。
- ・ インターンシップは、ある特定の会社に限定されるので複数の企業対複数の教員が会合する機会が必要である。
- ・ 企業と教員を「お見合い」させたい＝これがインターンシップの役割。

## 3. 学士力についての検討

・ 「最低限身に付けることが望まれる『固有の学習成果』について大まかな学士力を検討し取りまとめることにする。

- ・ 参考資料 2-4 を例に、1 項目、1-2 行ずつにまとめる。
- ・ 資料 0-C について説明。資料①の学士の部分だけを取り出し、まとめなおした。
- ・ 資料 0-C) 学士力 3. の「IT マネジメント」とは？

IT コーディネータが行うこと。IT コーディネータは IT ビジネスとマネジメントと橋渡しする。

「ITをマネジメントする」と取る。「ITを使ってマネジメントする」と取られるとは限らない。

- ・ ITをICTにしてはどうか？
- ・ 学士力3.スキル③「システム設計」の「システム」はコンピュータシステムに限定しない。
- ・ 学士力2.人材増④「改善提案」だけでなく、「システムの企画・計画・設計」を⑤として追加してはどうか？
- ・ Planningは、参考資料3(機械工学)でも明確に分けている。
- ・ 現状を考えれば、改善と設計は分けるべきである。
- ・ 更に、「⑥システム運用管理」を追加しては？
- ・ PDCAの観点から必要と考える。
- ・ フリートークで、意識合わせができたので、文章作りへ入りたい。
- ・ 現状の経営を対象とするだけでなく、新しい組織を作ることも考慮すべきでは？
- ・ 企業組織体の経営資源も考慮する。「～できる」という表現にして欲しい。「経営工学」とは、は不要？
- ・ 人材像の①～⑥を採用しては
- ・ 対象を絞って欲しい。技術に固執しない方が良い。

以上の検討を元に、経営工学の学士力(原案)を作成した。

今後上記原案をサイバーFD研究者に配信する予定である。大学(108名の教員からの回答)、企業からの意見を集約する。10月下旬までに次の会議を持ちたい

次回委員会:10/24(金)14時～16時 私情協事務室

以上。